

主会場選定にかかる関係競技団体聞き取り概要

1. 趣旨

- 各候補地の施設配置計画（案）により、代替施設の整備等の検討が必要となる関係競技団体役員に対し、その影響について聞き取りを行った。
- いずれも団体の組織決定を受けての回答ではない。
- 内容は主として、現施設内に代替施設の設置が困難な彦根総合運動場の施設（テニスコート・野球場・プール）についての意見となった。

2. 聞き取り内容の概要

1月27日現在で聞き取りを行った団体の意向は以下のとおり

（1）県テニス協会

- ・ 高体連やジュニアの大会等、高校生の試合が多く、彦根のテニス会場が減ると運営が大変苦しい。
- ・ 彦根総合運動場のテニスコートが使用できないと、長浜ドーム、希望が丘、大石緑地（大津市）のテニスコートを使用することになるが、いずれもほぼ同時に小・中学生の試合が開催されており、土日の会場確保は特に難しい。

（2）県ソフトテニス連盟

- ・ 彦根総合運動場、金亀公園（彦根市）、長浜市民庭球場、長浜ドームのテニスコートで40面を確保し、「全国（高校）女子選抜研修大会」を20年以上継続しているが、彦根が使用できないと継続が困難。
- ・ 市営のテニスコートは市民利用を優先させるので、（県レベル以上の）大会使用では全体の半分しか貸してくれないケースもある。

（3）県高等学校野球連盟

- ・ 彦根球場は、春季大会では全日程を通じ10日間、秋季大会では8日間程度使用。夏の選手権大会では皇子山球場と隔年でメイン球場として使用。
- ・ 伝統ある県立球場として、高校球児にとって象徴的な球場である。
- ・ 千人以上の観客を余裕をもって収容できる球場は、県内では皇子山球場（大津市）と彦根球場のみである。
- ・ 県北部、東部の拠点球場が失われることになれば、高校野球のみならず県全体の競技レベルの低下につながる。

（次頁に続く）

(4) 県軟式野球連盟

- 彦根球場は皇子山球場と並ぶ県下を代表する野球場であり、近畿大会や全国大会の開催ができなくなる。また、全国大会や近畿大会の予選など大会の運営に支障をきたす。

(5) 県水泳連盟

- 現在、県内に補助プールを持つ50m公認プールは彦根スイミングセンターと、大津市の皇子が丘プールのみである。皇子が丘は大津市立のため、夏季は補助プールの市民利用が優先されるため、大会等の際補助プールを練習会場としては使用できない。
- 数年に1回、中体連や高体連の近畿大会を持ち回りで開催しなければならず、この間補助プールが使える公認プールの確保が必須となる。
- 県内の既存の50m公認プールは、国体をはじめとする全国大会の開催基準を満たさないため、水泳連盟としては平成36年の国体や、その後の普及・強化の拠点として使用可能なプールを新たに整備することが望ましいと考えている。2020年に間に合えば、東京オリンピック合宿地の有力候補にもなり得る。
- 新設の場合、後利用を考えると、交通の便のいい場所への設置が望ましいと考えている。
- 他府県の例では、プールの底を可動式とすることで、プール以外の用途（アリーナ、イベント会場等）での使用が可能な施設もある。屋根付きとすることで、飲料水確保も含めた防災拠点としての活用も見込める。

(6) 県中学校体育連盟

- 彦根総合運動場テニスコートはソフトテニス専門部で県大会やブロック大会の会場として使用。JR彦根駅からも徒歩で移動でき、中学校の大会会場としては便利である。
- 彦根スイミングセンターは県大会やブロック予選の会場として使用。現在飛込プールは彦根スイミングセンターにしかなく、使用不可となると飛込競技の活動拠点が失われてしまう。

(7) 県高等学校体育連盟

- テニス専門部が彦根総合運動場と大石緑地のテニスコートを大会会場として使用。
- 彦根スイミングセンターは競泳、水球、飛込の大会会場となっている。

(以上)